

本学の教育と「職業教育」

山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学
学長 鈴木道子

2014年10月15日（水）

文部科学省

第2回「実践的職業教育を行う新たな
高等教育機関の制度化に関する有識者会議」

事務局からのご依頼内容

- 現在、どのように職業教育に取り組んでいるか。特に企業等との連携により職業教育に取り組んでいる好事例はあるか。
- 職業教育を行うにあたり、学校関係者あるいは学生の側から見て、現行制度の課題はどのようなことだと考えるか。
- 新たな高等教育機関をどのような制度とすれば、大学・短期大学・高等専門学校・専門学校で職業教育を行うよりも利点が生じると考えるか。

本日本お伝えしたいこと

- # 1 現在、本学で取り組んでいる「職業教育」について
- # 2 現行制度で「職業教育」を行うにあたり、課題として考えられること
- # 3 職業教育において、現状より利点を生じうる新たな高等教育機関制度について

～地方における限られた学科を有する小規模公立大学・短期大学の学長の立場から～

大学・短期大学

- <大学> 学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること（学校教育法第83条第1項）
- <短期大学> 深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を育成すること（学校教育法第108条第1項）

本学の構成

- 1法人2大学体制

山形県公立大学法人

山形県立米沢栄養大学

健康栄養学部健康栄養学科
2014年開学
管理栄養士養成施設

山形県立米沢女子短期大学

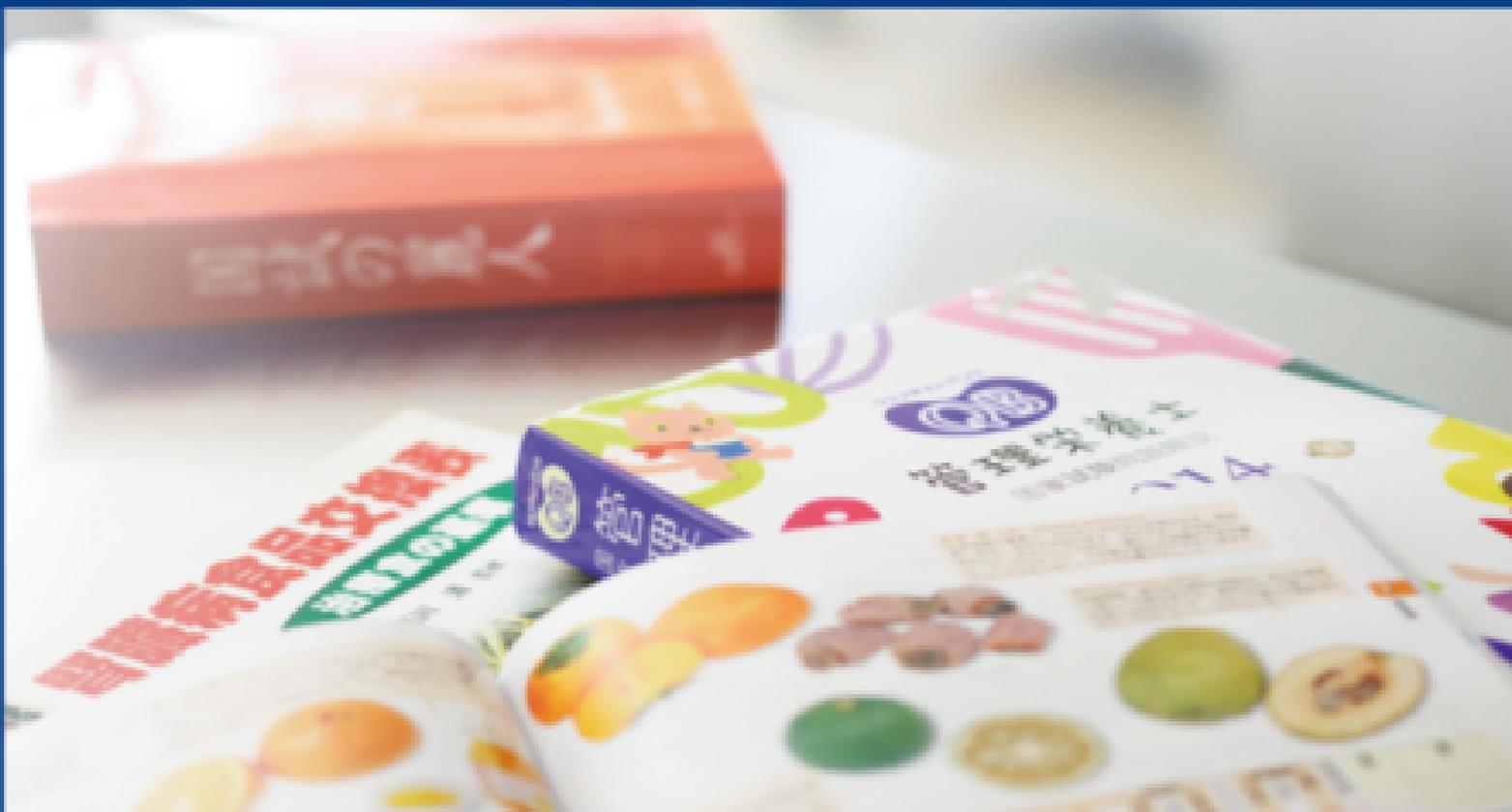
国語国文学科
英語英文学科
日本史学科
社会情報学科
1952年開学

山形県立米沢栄養大学の 「職業教育」の現状と課題

米沢栄養大 3つの特徴



特徴 1 管理栄養士の国家試験 受験資格を取得可能



特徴2 きめ細かな少人数教育



特徴 3 充実した学習環境



大学・学部・学科名称及び定員

- 平成26年4月に開学
 - 文部科学省→「大学」として認可
 - 厚生労働省→「管理栄養士養成施設」指定 } 二重の質保障
- 名称：山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
- 定員：入学定員40人（男女共学）
※3年次編入学定員4人 ~ 収容定員168人

取得可能な資格

- 管理栄養士国家試験受験資格
- 栄養士免許
- 栄養教諭一種免許状（希望者のみ）

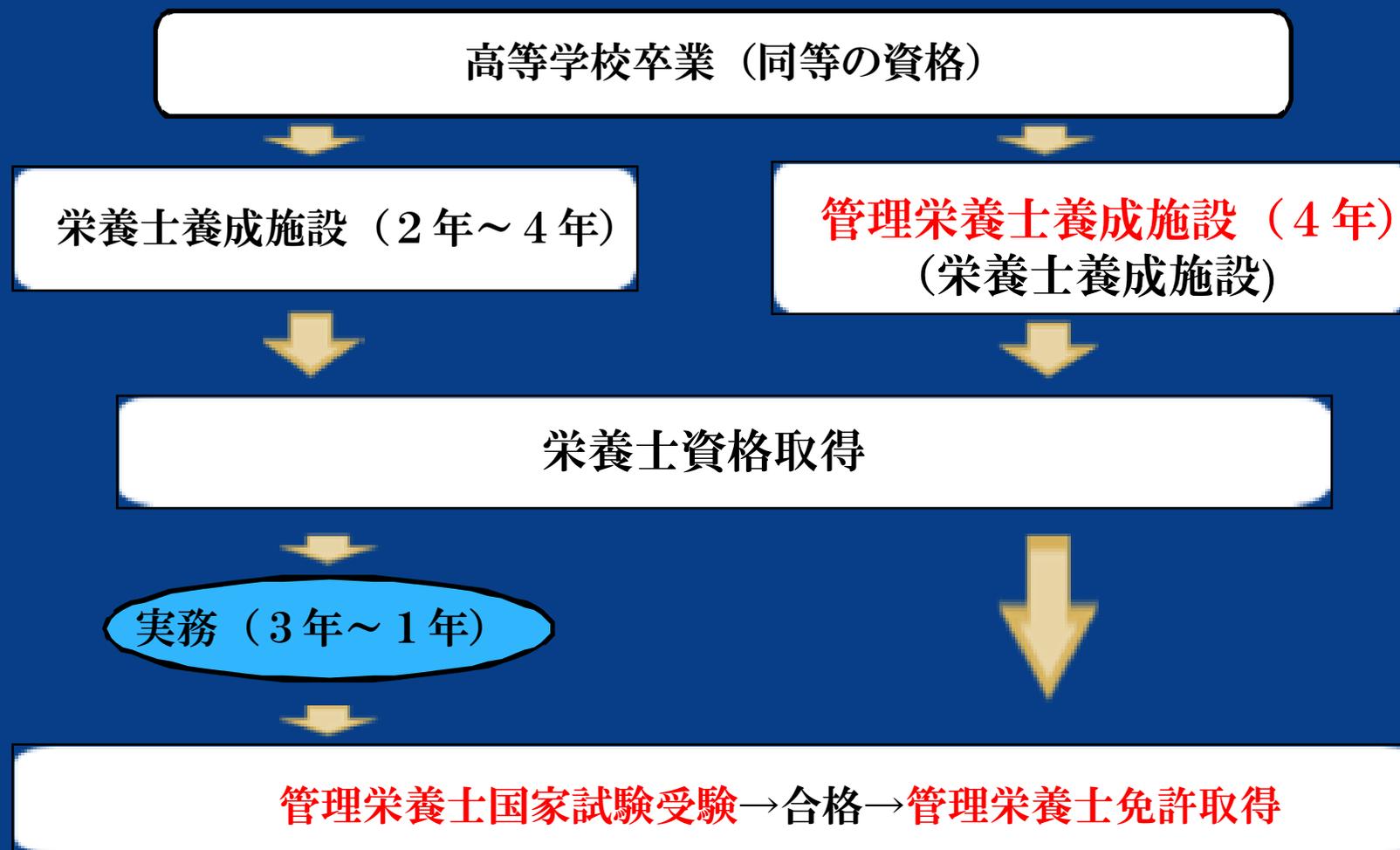
栄養士と管理栄養士

(栄養士法による規定；2000年改正栄養士法)

栄養士とは、都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいう。

管理栄養士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状態、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいう。

栄養士・管理栄養士養成の概要



第28回管理栄養士国家試験の結果

(2014年5月9日厚生労働省発表)

<合格状況>

受験者 21,302名

合格者 10,411名

合格率 48.9%

<学校区分別>

	受験者数	合格者数	合格率
管理栄養士養成課程 (新卒)	8,614名	7,857名	91.2%
同(既卒)	2,350名	561名	23.9%
栄養士養成課程 (既卒)	10,338名	1,993名	19.3%

大学（4年制）

管理栄養士養成施設

*

専門学校（4年制）

管理栄養士学校指定規則による質保障

<教育内容（専門科目）>

- 社会・環境と健康
- 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち
- 食べ物と健康
- 基礎栄養学
- 応用栄養学
- 栄養教育論
- 臨床栄養学
- 公衆栄養学
- 給食経営管理論
- 総合演習
- 臨地実習

<教員要件>

- 医師（最低）1名
- 管理栄養士（最低）4名

講義又は演習、実験又は実習を併せて最低82単位

<施設要件>

管理栄養士の就職先と現場

病院等医療機関
高齢者施設等福祉施設
行政（保健所等）
学校
研究機関・企業等



同職種の配置人数が少なく、
即戦力が求められることも
多い。

- 養成機関（大学）において、実践力を養成することの重要性
- 実務家教員による教育と現場での実習（臨地実習）の重視

一般に大学で管理栄養士を養成する場合の課題

大学内：実務家教員の確保と質保証

実務家であり、大学教員であるということ
業績評価、職位
現場とのつながり（実務家としての質の問題）



支援・協力

現場（職場）

臨地実習
非常勤講師・ゲストスピーカーの派遣など

本学（山形県立米沢栄養大学）の場合

「県民の健康で豊かな暮らしの実現に寄与する」ことを目的として開学



山形県、県内自治体、関係諸機関との連携が密
山形県栄養士会（職能団体）からの全面的支援

山形県立病院栄養
管理部門との
連携協議会設立

臨地実習先（病院・福祉施設・学校等）の円滑な確保
実務家非常勤講師・ゲストスピーカーの円滑な確保

山形県立米沢女子短期大学

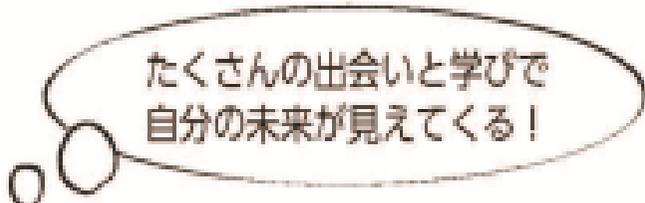
●●●
国語国文学科
英語英文学科
日本史学科
社会情報学科



よね たん

米短の

3つの特徴を知ろう



アットホームな雰囲気ですぐ2年間

本学は多彩な専門学科を擁する総合短期大学です。少人数の授業では、お茶を飲みながら教員と学生がやりとりする姿を見ることができる、そんなアットホームな雰囲気ですぐ2年間のことができる大学です。

POINT 1

多彩な教養教育



POINT 2

実践力を養う、高度で充実した専門教育



POINT 3

可能性を広げ、未来を拓くキャリア支援



米短での取得可能な資格

- 国語国文学科
中学校教諭二種免許（国語）、図書館司書、
学校図書館司書教諭、ピアヘルパー（受験資格）
- 英語英文学科
中学校教諭二種免許（英語）、図書館司書、
学校図書館司書教諭、ピアヘルパー（受験資格）
- 日本史学科
中学校教諭二種免許（社会）、図書館司書、
学校図書館司書教諭、学芸員（試験科目の免除）
ピアヘルパー（受験資格）
- 社会情報学科
図書館司書、ピアヘルパー（受験資格）

米短におけるキャリア支援

本学ではキャリア支援センターに4名の職員が常駐し、進路に関する相談や指導などの学生支援にあたっています。また、学生の志望に対応した様々な講座やトレーニングを数多く実施しています。

さあ、夢を叶える2年間の スタートです。



私たちがサポートします！

あなたの未来が拓けるよう、 キャリア支援センターがバックアップ

キャリア支援センターは、一般企業や官公庁への就職、4年制大学への編入学等多岐にわたる卒業後の進路目標を達成するために、情報収集や学習機会の提供、直接指導等を行います。米短での学びを通して、将来の目標を決め、自ら望むような生き方を実現できるように、皆さんを強力にバックアップします。



1 年生 4月～9月

1 年生 10月～2月

スタート 入学

入
学

1年での生活を通して、
自分の適性や
次の目標を確認し、
それに向けた進路を
考えます。

キャリア形成
ガイダンス

インターンシップ

キャリア形成
支援講座

民間企業就職志望

試験に向けての 基礎講座

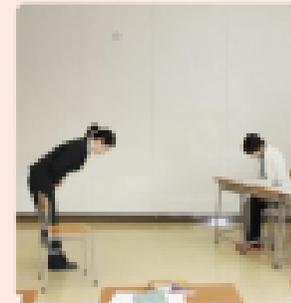
どのような進路でも
必要になる自己PRや
マナー等のトレーニングを
積み重ねましょう。
面接によわれないメイクとは、
どんなやつかたかな？

しっかりした自己分析と企業・
職種研究を行い、志望する
企業群を選択します。

就職ガイダンス

先輩方の就職内定体験報告会

就活対策強化講座



公務員志望

ビジネスマナー
トレーニング

メイクアップ講座

自己PR・面接
トレーニング

面接訓練

公務員試験は、それに
合わせた毎日の対策が
必要です。

公務員ガイダンス

公務員試験勉強会

公務員試験対策講座



編入学志望

志望大学を決め、過去問を
参考にして必要な勉強を
積み重ねます。

編入学ガイダンス

英語講座

小論文添削



1

1年生 3月～

就職活動
スタート

会社説明会へ参加・
応募書類の提出



試験勉強

出願の情報収集



試験勉強

出願の情報収集

もうすぐ
2年生!

本格的に活動開始!

いよいよ試験です

2

2年生

採用試験
筆記、面接 など

- 学内合同企業説明会
- 面接対策講座

内定 /

8月頃

出願開始
一次試験

- 公務員試験
直前講座

10月頃

二次試験

- 二次面接練習

合格 /

5月頃

出願開始

- 小論文講座
- 面接講座

5～10月

試験

- 英語・小論文
模範試験
- 面接練習

進路決定 /

現行制度の課題

•••

学校種・個別大学の特徴・地域の状況等により
抱える課題は多様であろうが・・・

大学における「職業教育」の課題

- プロフェッショナル養成をめざす大学では・・・
- 現場（職場）における実務実習の在り方（カリキュラムへの位置づけ）を含め、現場からの支援
- 実務家教員の確保、評価、研修等の課題
- 上記に関連した学内外の課題

短期大学における「職業教育」の課題

- 教養系、人文・社会科学系の学科構成であれば・・・
- 取得可能資格も含め、職業と直結しづらい。
- カリキュラムは、教養科目・専門科目が中心となり、「職業教育」（キャリア教育）は、正課外の時間が中心となり、時間的制約がある。
- そのため、大学で提供できるキャリア教育の内容が、就職活動に向けてのノウハウや技術・マナー指導が中心とならざるをえない。

大学（短期大学含む）における「職業教育」の課題

学校側	<ol style="list-style-type: none">1. カリキュラムに関する課題 ：時間的制約の中での配分、実習・実務実習の位置づけなど2. 教員に関する課題<ol style="list-style-type: none">①実務家教員に関する課題②アカデミック教員に関する課題3. 現場（職場）との連携に関する課題4. 「職業」に対する大学の気風
学生側	<ol style="list-style-type: none">1. 「職業」に対する意識の希薄さ2. 「職業」について考える機会の不足3. 「学力」による大学選択（学生本人・保護者・初中等教育機関）

現行の高等教育制度の問題なのか？

個別の大学の課題なのか？

より大きな社会的背景の問題なのか？

新しい高等教育機関制度の可能性

...

- ①現場（職場）で通用する実務実習の重視
- ②高等教育機関としての質保証

新たな高等教育機関で養成される職業人の分野

- 基盤となる学問分野がある程度確立されており、膨大な新たな知識の習得、問題解決能力の育成よりは、個人の習熟が重要視される分野
- 職業の対象が、「ひと」よりは「もの」とのかかわりが大きい分野
- 一定程度、現在の専門高校と関係がある分野
- ある程度幅広い領域で必要とされる分野

なお、確立された資格取得にかかわる分野については、国際基準及び職能団体（専門職団体）の養成に関する意向を尊重する必要がある。

- 具体的には・・・
商業（ビジネス・会計等）、工業（情報等）、農業分野等

教育機関としての特徴

- 教育内容や授業の方法等：実務実習の重視
学内実習のさらなる充実
現場（企業内）実習の位置づけの明確化
- 教員要件：質の高い実務家教員の確保と位置づけ
研究業績中心ではない柔軟な教員の業績評価
実務家の「教員」としての研修の充実
実務家教員の意思を尊重したうえでの任期、配属
アカデミック教員との調整（業績評価、職位など）
- 必要な施設・設備の完備

•

産業界との協働

- 産業界との連携の必要性
ただし、個別企業ではなく、
より広範囲な同職種または近接職種との連携
- 連携企業（種）との教育内容協議
- 連携企業（種）からの実務家教員の確保、実習協力
- 「実務家教員」の処遇等への合意

修了者の評価等

- 修業年限：2年～3年または4年
ただし、社会人の学び直しにも対応できるよう、
より柔軟なコース設計も考慮
- 学位・称号：必要
- 大学への編入学、大学院への接続等：必要
- 認証評価等の質保証のシステムは必須

最後に

- 実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関については、様々な状況にある若い人々が希望をもって人生を歩めるための選択肢の拡大や、長い人生の中で、方向転換を希望したときの選択肢の拡大という視点から期待します。
- それとともに、地方における人材定着、地域活性化への期待もあり、そのためには、制度化以後の話ではありませんが、個別教育機関認可に当たっては、地域のニーズ、状況等を十分に考慮していただきたい。



<ご清聴ありがとうございました>